

第5回 一宮の魅力ある海岸づくり会議（結果概要）

- 日 時 平成23年9月3日（土）
午後2時30分～4時30分
- 場 所 一宮町保健センター3階多目的室
- 参加者 ・別紙委員22名（代理出席を含む）
・傍聴者：一般8名、報道3名

【配布資料】

- ・ 座席表
- ・ 釣区長大橋様からの質問書
- ・ 会議傍聴要領
- ・ 一宮なぎさのルールブック
- ・ 会議次第
- ・ 委員名簿
- ・ 資料-1 一宮の魅力ある海岸づくり会議 規約
- ・ （非配布）東北地方太平洋沖地震津波について
- ・ 資料-2 第4回一宮の魅力ある海岸づくり会議（結果概要）
- ・ 資料-3 6号ヘッドランド（以降、HL）について
- ・ （非配布）6号HL横堤の長さについて
- ・ （非配布）海浜変形のシミュレーション
- ・ （非配布）HL間の養浜事例

【会議内容】

- ①委員紹介（規約の改正について）
- ②大橋委員からの質問についての回答
- ③東北地方太平洋沖地震について
- ④第4回開催結果概要
- ⑤6号ヘッドランドについて

【結果概要】

①委員紹介について

- ・ 4月に区長さんの交代や県・町の人事異動があったことから新しく委員に就任した人もいることから委員紹介を行った。
- ・ 長生地域整備センターが長生土木事務所に名称変更したため、規約の第7条を改正したことを事務局から報告した。

②大橋委員からの質問に対する回答

- ・ 大橋委員から事前にファックスで質問状が届いたことからそのことについて回答を行った。

③東北地方太平洋沖地震について

- ・ 事務局からPPTを基に説明した。(配布資料はなし)

④第4回結果概要について

- ・ 事務局から資料2を基に説明した。

⑤6号ヘッドランドについて

- ・ 事務局から資料3を基に説明し、意見交換を行った。

〔議決事項〕

- ・ 6号ヘッドランドの形状は、現行案を採用することとする。

【結果詳細】

【議事内容】

1. 開会

2. 挨拶

(玉川町長)

- ・ 東日本大震災の被害について：一宮町でも 2.7m の津波が来襲し、30 戸が床上浸水した。
- ・ 一宮海岸の利用について、海岸利用検討委員会でルールブックを作成した。

3. 委員紹介

- ・ 大橋委員からの提案・質問について（配布資料）

(事務局)

- ・ 1 の回答：津波の被害の実態や環境を調査し把握した上で、会議に臨みなかったため。
- ・ 2 - (1) の回答：太東崎と屏風ヶ浦の供給土砂が崖侵食工事によって減少した点、漁港建設に伴う沿岸漂砂が阻止された点、天然ガス採取によって一宮川河口においては 50～60cm 程度地盤沈下している点、などの理由で海岸が侵食した。南は一宮海岸、北は野手海岸付近で最大 100m 程度汀線が後退した。
- ・ 2 - (2) の回答：侵食対策として昭和 58 年から離岸堤を建設し、その後昭和 63 年から HL 建設を進めてきた。昨年度までにトータルで約 67 億円を投じた。全体計画の事業進捗は 6 割弱。
- ・ 2 - (3) の回答：県としては、HL 対策で侵食の進行を防ぎたい。侵食のペースを落とすとしても、砂浜は回復しないので、HL 対策に加え、海浜利用の高い 2-3 号 HL 間、7-8 号 HL 間において、20、30 万 m³ の土砂を養浜して、砂浜幅 40m を養浜目標にして、砂浜を回復させていきたい。
- ・ 3 の回答：現在、津波対策について検討している最中だが、侵食対策は津波対策にも寄与するものだと考えているため、継続して侵食対策を進めていきたい。津波対策についても近藤先生や宇多先生らに技術的なアドバイスをもらいながら早々に取りまとめていきたいと考えている。
- ・ 4 の回答：9-10 号 HL は堆積傾向であるため、当面はモニタリングして観察していきたい。せっかくのご提案だが、工事は当面しない方向で考えている。

4. 議事

○報告事項

事務局から以下の2点について説明

- ・東北地方太平洋沖地震について
- ・第4回開催結果概要

【意見・質問】

(大橋委員)

- ・なぜ飯岡地区で津波被害が大きかったのか。

(事務局)

- ・飯岡海岸に波が回り込んで集まったため、津波高が周りと比べて高かった。また、海岸と背後の住宅の間に、保安林などの波を遮るものが何もなく、海岸線に住居が近かったことが挙げられる。

(宇多副会長)

- ・今回の津波では、飯岡のほかにも大洗、日立港、大津漁港など、湾の北側の岬で津波高が高く被害も大きい。湾の北側で津波高が高くなる現象について、明確な原因は未だわかっていないが、これから解明していく必要がある。

(松井委員)

- ・震災の2週間前、飯岡上空を飛行機で飛んだが、飯岡漁港の北側に大量の砂が堆積しているのが見えた。今回、被害が大きかったのは、そのせいではないかと思っている。

(宇多副会長)

- ・漁港北側に堆積している砂は、粒の細かい砂である。今回の津波では、岩手県から南の方まで、細かい砂は津波の作用ですべて持ち去られてしまった。したがって、飯岡の津波高が大きかったことに直接的な関係はない。

(芝本委員)

- ・福島大学奥本准教授の講演で、今回、津波被害を受けた地域の中で、構造物の多い所は復旧が大変だと聞いた。何もなかったところは、構造物などが流れてこなかったのも、復旧作業が他より早くできる。したがって、構造物があることで二次災害を招いた可能性がある。この点を踏まえ、二次災害の危険性を減らすような構造物の対策方法についても今後の議題に取り入れてもらいたい。

(宇多副会長)

- ・ 構造物が壊れて二次災害を招いたことは間違いない。ただ、構造物の多い所は、元々侵食傾向であり、沖の地盤が低くなって浜幅の狭い海岸が多い。浜幅も広く、背後に砂丘や保安林の土塁などで地盤が高い箇所がある海岸は、被害は小さかった。構造物の無い所でも、松林が津波に流されて同様な被害を招いた例もあるが、津波被害の程度は、海岸構造物の有無ではなく、地形条件によるところが大きい。

(大橋委員)

- ・ 今回、湾の地形をした場所において津波被害が大きかった。飯岡地域の被害が大きかったのも、湾の地形だからではないか。飯岡漁港の存在で、飯岡地域は湾地形であるように見える。すると、今回の被害は人災になってしまうのではないか。HL も考えようによっては湾になるので、危惧している。

(宇多副会長)

- ・ 飯岡は防波堤の高さが T. P. 3. 5m と宮城県など被害の大きかった県より低く、津波が防波堤を超えていくため、そこまで影響の心配はない。また、HL は仙台湾などにも多数あるが、背後地の被害にはほとんど関係ない。HL 自体もブロックが数個移動した程度であった。

○議題

事務局から以下の点について説明

- ・ 6号 HL について
- ・ 6号 HL 横堤の長さについて
- ・ 海浜変形のシミュレーション

【意見・質問】

(大橋委員)

- ・ 防護面での最小浜幅 15. 7m というのは、現状よりも侵食するということか。

(事務局)

- ・ 50年後に浜幅 15. 7m に落ち着くという意味である。現状からの後退量は 10m 弱ぐらいと思われる。

(大橋委員)

- ・ シミュレーションではどのような情報をもとに地形の入力データを作成しているのか？机上の地形を作っているのではないか？

(宇多副会長)

- ・ 実際は1980年から現在までの地形をもとに再現計算を行っている。過去、現況の地形と比較することで確認している。

(近藤委員)

- ・ 私は毎年測量しているのを見ているので、大丈夫。実測データはある。

(大橋委員)

- ・ 50年後にならないと結果が出ないのでは困る。

(宇多副会長)

- ・ これは、あくまでも長期的な予測結果である。要望があれば、10、20年後の予測結果を示すこともできる。

(大橋委員)

- ・ 吉田さんのやっているロープは効果的だと思うが、今日見た方法は効果が現れないように感じる。今回、私が提案した方法はお金もかからないし効果的だと思うので、是非実施して欲しい。

(宇多副会長)

- ・ 前回の議論にもなったが、吉田さんのロープのやっている場所は、太東漁港の影響で砂が溜まる傾向にある箇所である。砂が堆積したのは、ロープによる効果が全てではない。他の場所にもって行って、効果がでるかは断定できない。

(大橋委員)

- ・ では、ロープを取ってしまった場合に、砂浜が侵食したら認めざるを得ないということか。

(宇多副会長)

- ・ ロープを撤去しても、局所的に堆積した砂が流れてなだらかな海岸線に代わるだけで、大きく侵食はしないだろう。

(大橋委員)

- ・ そんなことはないと思う。

(松井委員)

- ・ 大橋委員の提案している方法に納得する。その効果を検証する場合に、今ロープが設置されている場所が堆積傾向というのであれば、侵食している場所でロープをやってみたら良いのではないか。

(清野委員)

- ・ 小規模の現地実験をやってみたらどうか。県と町が話し合っって進めることはできないか。もし実現できる場合は、住民の方にも提案書の作成や、写真を撮ってもらうなどの協力が得られれば、簡単にできるのでないか。

(宇多副会長)

- ・ テストしてみようと言うのはわかるが、少し規模が大きくなるとそれなりの費用がかかる。お金をコントロールしている側からすると、手厳しく言われる。それでもやりたいのであれば、ロープを設置している場所を細かく調査してみて、周辺と何が違うのか調べたら良いだろう。

(清野委員)

- ・ 宇多副会長の言ったように、観測データを撮ったほうが良い。住民参加型エココスト事業というのもあるので、活用したらよいだろう。

(近藤会長)

- ・ 今回の会議では、6号HLについて意見をもらう事が主旨なので、ロープの話題については重要な課題であるが、今後も継続的に議論を重ねていく事にして、今回の議題からは外させてもらう。

(芝本委員)

- ・ 秋山委員は、その専門的な観点からHL中央部に砂がつくことが大事であると指摘しているが、今回の検討結果では、どの形状案もHL中央部の対策については説明がなかったので説明して欲しい。

(事務局)

- ・ 6-7HL間に養浜した場合の計算結果を説明。

(近藤会長)

- ・ どんなことやっても砂浜が増えることは無いので、まずは侵食を防ぐことが優先。しかし、HLの中央部が減ってしまうので、養浜が必要になってくる。これが、県の考えであると思う。

(芝本委員)

- ・ 養浜は継続して進めていくということだが、九十九里浜全体を考えるのであれば、元々の太東崎や屏風ヶ浦からの供給土砂が減少したことが根本的な問題なので、これについても見直す必要があると考えている。養浜は応急処置のように感じる。

(近藤会長)

- ・ もっとも良い侵食対策は今のところ、HL事業である。今のうちに、出来るだけのことはやっておいたほうが良い。もちろん景観的な部分もあるが、しっかりとした侵食対策をしなければ九十九里浜自体が無くなってしまいかもれない。

(芝本委員)

- ・ 今回ご説明していただいた中で、どのような事まで議論するのか

(近藤会長)

- ・ 今回ののは、事務局から説明があった4案の中から形状を決めて、工事を進めても良いのか、さらには養浜を続けても良いかについて合意を得たい。
(清野委員)

- ・ 九十九里浜の土砂管理計画を10年程前から進めてきたが、その点を県より説明頂いて方が、この事業も理解されやすいのではないかと。県のビジョンが無いままでは議論しづらいだろう。

(事務局)

- ・ 南九十九里浜養浜計画について説明。

(宇多副会長)

- ・ HLを作ることが目的なのではなく、秋山先生が指摘するように砂浜を回復させることが侵食対策の根本である。養浜をすれば確実に砂浜が回復するのだから、今回のようなヘッドランドの詳細検討の議論よりも、養浜事業の話に展開していきたい。

(近藤委員)

- ・ 賛成。

(田邊委員)

- ・ 海岸区にはHLが3本あるが、確かに養浜した箇所では砂浜が増えている。6号についても現行計画案で進めてもらい、さらに養浜もして砂浜を回復させて欲しい。

(近藤委員)

- ・ 過去も含めて、県の検討内容は間違っていないと個人的に捉えている。すみやかに養浜計画を進めて欲しい。

(近藤会長)

- ・ 今回は6号HLのデザインをどうするかがメインテーマである。事務局から4案の中では、現行計画案が一番良いという説明があった。現行計画案を採用することで良いか。

(近藤委員、秦委員)

- ・ 良い。是非、現行計画案で早く進めて欲しい。

(宇多先生)

- ・ 現行計画を採用して、すぐ工事してできるのか？

(事務局)

- ・ 工事に取り掛かるのが2~3ヶ月先、完成するのは1~2年程である。

(近藤委員)

- ・ 養浜について、海上だけでなく陸上養浜も実施したほうが良いのではない

か。海上からでは投入土砂の確認ができない。陸上からならば、私らが養浜を確認できるので安心。

(大橋委員)

- ・ 私の提案した方法をシミュレーションしてもらいたい。

(宇多副会長)

- ・ シミュレーションが出来るかどうか事務局で検討してもらったらどうか。

(近藤会長)

- ・ 6号HLの形状は現行計画案で良いか。 → 一同賛成。
- ・ 養浜については合意してもらえるか。 → 一同賛成。

5. その他

- ・ 次回の会議では、事業の実施計画、4号HLについて説明する。開催日は来年度になる。

(玉川町長)

- ・ 現在、県で海岸管理を行っているが、来年度から町が海岸の管理を行っていくことになった。

6. 閉会

【委員会出席状況】

第5回 一宮の魅力ある海岸づくり会議 出席者名簿		
団 体 名	氏 名	備 考
日本大学工学部海洋建築工学科 教授	近 藤 健 雄	出
日本大学工学部海洋建築工学科 客員教授	宇 多 高 明	出
九州大学大学院工学研究院環境都市部門 准教授	清 野 聡 子	出
九十九里浜自然誌博物館 館長	秋 山 章 男	出
九十九里漁業協同組合 役員	齊 藤 彰	代理 副組合長 伊東範暢出席
一宮町観光協会 会長	鶴 岡 巖	出
一宮町地曳網保存会 会長	山 口 久 宜	出
一宮町海の家組合 組合長	近 藤 秀 雄	出
一宮町商工会 会長	秦 重 悦	出
十二社祭り保存会	御 園 生 義 輝	欠
一宮の海岸環境を考える会 代表	小 松 直 之	代理 副代表 鶴沢清永出席
日本の海岸環境を守る会 会長	芝 本 聖 子	出
一宮町サーフィン業組合 代表代行	中 村 新 吾	出(急遽欠)
釣区 区長	大 橋 照 雄	出
枇杷畑区 区長	長 谷 川 清 治	出
大村区 区長	川 崎 久 栄	欠
新浜区 区長	相 澤 一 茂	出
16区 区長	渋谷 一 郎	出
海岸区 区長	田 邊 良 男	出
公募委員	吉 田 正	欠
公募委員	松 井 満	出
千葉県県土整備部河川整備課 課長	高 澤 秀 昭	出
千葉県長生土木事務所 所長	簾 壽 志	出
一宮町まちづくり推進課 課長	斉 藤 文 雄	出
一宮町産業観光課 課長	岡 本 和 之	出
一宮町都市環境課 課長	小 関 義 明	出